

豊饒の海に 広がる浪漫

幾千の時を経ても
同じレリーフは刻まれることはない
自然の妙と奇跡がここにある

熊本県 宇土市 [日本の渚百選]

目次

表紙題字 宇土市長 田口 信夫

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 01 御輿来海岸 | 12 自然公園・風物詩 |
| 02 馬門石 | 14 肥後三大夏祭り うと地蔵まつり |
| 03 馬門石の機能美と造形美 | 16 雨乞い大太鼓 |
| 04 キリシタン大名 小西行長 | 17 祭り・行事 |
| 06 轟泉水道と轟水源 | 18 宇土市文化財Map |
| 08 宇土マリーナ・物産館 | 20 宇土市街地 |
| 10 宇土の逸品 | 21 地区別マップ |
| 11 幕府への献上品 網田焼 | 24 UTO Map |

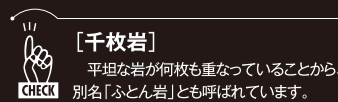


景行天皇聖蹟記念碑

御輿来海岸

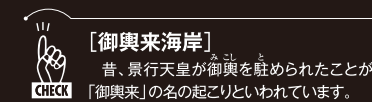
宇土半島の北側、網田周辺の約5km続く穏やかな海岸で、有明海の向こうには長崎県の島原半島や雲仙普賢岳を間近に望め、雄大な自然のパノラマが広がります。

また、有明海は全国でも満潮・干潮の差が大きいことで知られ、干潮時には砂浜に波の形のような大きな曲線模様が現れます。この模様を撮影しようと全国から多くのカメラマンが訪れます。



【千枚岩】

平坦な岩が何枚も重なっていることから、別名「ふとん岩」とも呼ばれています。



【御輿来海岸】

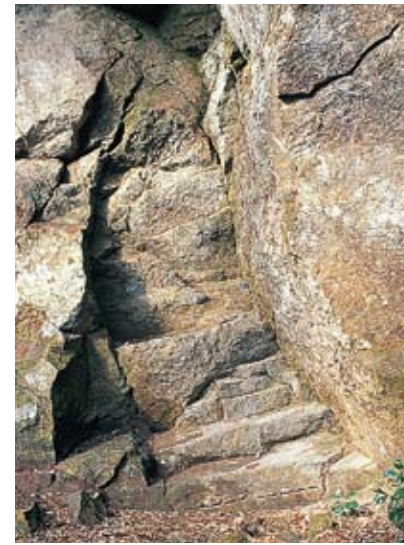
昔、景行天皇が御輿を駐められたことが、「御輿来」の名の起りといわれています。

馬門石に秘められた謎とロマンを求めて

馬門石

[馬門石とは]

今から約9万年前、阿蘇山の大爆発で流れ出た火砕流が冷えて固まって出来た阿蘇溶結凝灰岩のうち、宇土市網津町馬門付近に産するものを、馬門石(阿蘇ピンク石)と呼んでいます。



馬門石石切場跡

古代から連続と掘り出されてきた馬門石。中国・近畿地方の有力豪族の棺が造られた古墳時代と、轟泉水道大改修に代表される江戸時代に最盛期がありました。昭和30年代に本格的な切り出しは行われなくなり、現在は雑木林に覆われ、苔むした石の破片が崖を覆っています。近年、馬門石の歴史の謎を解くため発掘調査に着手。5世紀中頃から7世紀前半の土器が出土しました。

[古墳時代]

宇土半島周辺で馬門石を使用した古墳で最も古いのは、5世紀前半の長砂連古墳の石室材です。以後、ヤンボシ塚古墳・千金甲古墳・鴨籠古墳・井寺古墳等で使用されました。同じ頃、岡山県古備地方の造山古墳に馬門石製の石棺が運ばれています。5世紀末から6世紀前半になると、大阪府峯ヶ塚古墳・長持山古墳等の河内・大和・摂津の天皇や、それを支えた有力豪族の棺に用いられました。また、継体大王(天皇)陵・大阪府高槻市今城塚古墳、滋賀県野洲市円山古墳・甲山古墳にも運ばれましたが、なぜかこれらの古墳に運ばれた時期は地元で全く使われていません。



植山古墳 (奈良県橿原市) 6世紀末
東西40×南北27mの方形墳。西石室が継体大王の孫である推古女帝、東石室は子の竹田皇子で、竹田皇子は馬門石製の家形石棺に葬られました。皇子の石棺は、完全な形で見つかりましたが、女帝の棺は大阪府太子町へ改葬されました。



椿原古墳 (椿原町) 7世紀初頭
19×18mの方墳で、横穴式石室の刳抜玄門に馬門石を使用。古墳時代終末期に属する方墳は、県内では唯一であり、畿内地域との関係を考える上でも極めて重要です。



石棺と修羅
馬門石で復元された重さ約6.7トンの石棺と、それを運ぶ木ブリの修羅



大王のひつぎ実験航海

古代船「海王」と丸太台船「有明」
古墳時代の石棺は船を使って運ばれたに違いありません。石棺を復元し、大阪まで船で運ぶ壮大なプロジェクト。2005年7月24日に宇土マリーナを出港。1ヶ月余りの航海を経て、8月26日に目的地の大阪南港(大阪市)に到着しました。現在、海王や石棺などは宇土マリーナに展示されています。

馬門石の機能美と造形美。

[江戸時代]

馬門石の2期目の隆盛期。轟泉水道の大改修で大量に馬門石が採掘されて以降、肥後細川藩の管理下におかれ、熊本平野周辺・宇土・玉名地方で橋や井樋(水門)・鳥居・祠などの公共施設に使われました。この石を監督する役人「赤石場見締役」を置き、1816年から1843年までは中園英之助(肥後細川藩御山支配役)がその役職を勤めていました。

[明治以降]

廃藩によって、馬門の石工衆は藩の保護を失い、自立の道を歩むことになりました。明治17年(1884)に石工職5戸、赤板石3,500枚を出荷した記録が残っています。公共物の祠・記念碑・石柱だけではなく、私的な施設にも使用されるようになりました。流し・下水溝・石畳・炉・個人戸井など多様です。昭和35年頃までは、盛んに採掘されていましたが、コンクリートブロックの出現により次第に衰退していきました。

[鎌倉・室町時代]

さかんに使用されていた古墳時代から一転、大型の馬門石製品は造られなくなりました。13世紀中頃の鎌倉時代の浄土宗寺院(宇土市西光院)に建長2年(1252)銘の五輪塔が確認されており、室町時代にかけても供養塔や墓石に使われました。熊本市御幸木部遺跡、宇城市松橋町長傳寺跡から五輪塔・宝篋印塔が発見されていますが、石塔(墓石)が主で、その発見例も多くはありません。



国際彫刻シンポジウム

宇土市では、国内外の彫刻家を招へいして、馬門石彫刻の公開制作を実施。馬門石を素材にした巨大モニュメントを制作しました。作品はパブリックアートとして市民の憩いの場に設置され、馬門石を通して宇土市の芸術文化を世界に発信しています。



太陽の塔 ヨオ・クレイ(ドイツ)
2003年8月 宇土マリーナ



生まれ変わり テール・ラッツ(アメリカ)
2003年8月 宇土マリーナ



朝陽のために
佐藤淳一(日本)
2003年8月 宇土マリーナ



ロンダ 本田貴信(日本)
2003年8月 宇土マリーナ



スピリッツ クリスティーヌ・メイティス(フランス)
2004年10月 宇土市民会館



大王のひつぎ 高濱英俊(日本)
2004年7月 宇土マリーナ

小西 行長

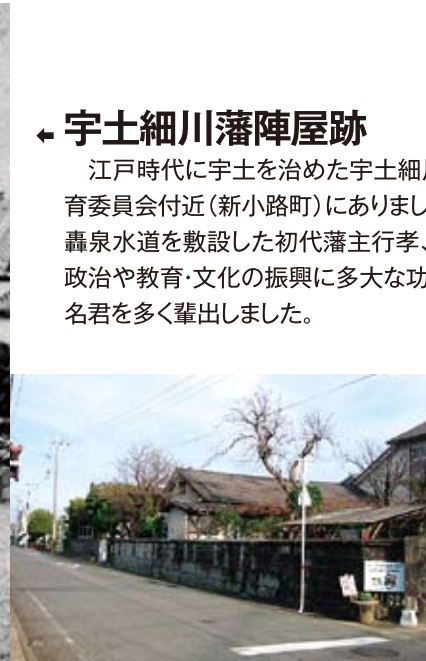
豊臣秀吉を魅了したキリシタン大名

堺(大阪)の商家に生まれ、豊臣秀吉に家来として召しかかえられ武士になりました。その後、天正16年(1588年)には加藤清正と共に肥後国へ入り、宇土24万石(宇土・益城・八代・天草の4郡)の領主となりました。翌年、西岡台にあった城(中世宇土城)を、その東方に隣接する小高い丘に移し、完成したのが近世宇土城(城山)です。

行長が宇土の領主であったのは僅か13年程でしたが、新城の建設と並行して宇土の城下町造りにも取り組んでおり、現在の市街地の基盤はこの時に形づくられたものです。また、行長は熱心なキリシタンでしたので、宇土周辺にも信者が増え、城内には教会があったといわれています。

朝鮮出兵の文禄・慶長の役では、加藤清正等と共に出兵し、文禄の役では先陣として戦果をあげ、また慶長の役では、和平交渉の大役を担当して“智将”としての才覚が認められました。しかし、関ヶ原の戦いで行長は石田方(西軍)の主力として敗れ、捕えられて京都で処刑されました。この時42歳でした。

現在、宇土城の本丸跡は公園化され、“悲運の武将”小西行長の銅像が西の空を見つめるようにして立っています。



5代藩主・細川興文肖像画

宇土城跡(小西城) (市指定史跡) →

安土・桃山時代に小西行長が築城した石垣づくりの城跡で、後に加藤清正が自身の隠居所とするために改修しました。清正の死後、幕府の命令により破城(城を壊すこと)となり、天草・島原の乱後に2度目の破城を受けました。写真中央付近に周囲を樹木で覆われ四角く緑に見えるのが本丸です。発掘調査で中国製の陶磁器や大量の瓦などが出土しました。



← 宇土城跡(西岡台) (国指定史跡)

戦国時代に活躍した宇土氏、名和氏の城跡。「西岡台」と呼ばれる小高い独立した丘陵のほぼ全域が城の範囲であったと考えられています。

城の中心は「千畳敷」と呼ばれる頂上部で、おびただしい数の柱の痕跡(柱を立てるための穴)が発掘調査で確認されました。素焼きの皿や中国製・東南アジア産の陶磁器など貴重な品々も出土しています。また、古墳時代前期(4世紀頃)には防御機能を持った首長(豪族)の居館としても利用されており、5世紀頃には古墳が造られた形跡もあります。

1979年に国の史跡に指定され、歴史公園としての整備が進められています。



↓ 船場橋

江戸時代末期に造られた船場橋は、浜戸川の支流、船場川に架かる石造の単アーチ橋で延長13.7m、幅4.1mを測ります。石材には馬門石を使用しています。現在でも完璧な構造美と軽快なアーチの曲線美を誇り、当時の肥後の石工たちの優れた技巧が今なお残っています。

船場界隈

船場橋近くの川岸には川に下りるための石段や船着場跡があります。また、川のほとりは江戸時代に宇土細川藩蔵屋敷があったところで、武家屋敷や井戸なども残されています。時代の流れとともに大きく姿を変えた市街地の中であって、この界隈は江戸時代の名残をとどめるスポットとして市民に親しまれています。



天草四郎時貞 (1623~1638)

四郎は1623年に長崎で生まれ、宇土で育ちました。父親は益田甚兵衛といって、元は小西行長の家来で宇土の江部村(現在の旭町)に住んで農業をしていました。四郎は後に天草四郎時貞(洗礼名ジェロニモ)と呼ばれるようになり、キリシタンから“天の使い”とあがめられ、わずか15歳で天草・島原の乱(1637年)で3万7千人の民衆を指揮して強大な幕府軍と戦いました。

孝行娘のはなし

その昔、名和の殿様がお忍びで城下にお出かけになった時、通りかかった茶屋で母娘の作るおいしそうな小さい餅に目を止められ、その若い娘に注文して召上がりしました。殿様は金も払わず店を出て行こうとしたので、娘は“お代をちょうだいいたします”と言いました。お金を持たなかった殿様は自分の着物の片袖を切りとって娘に渡し、“これを明日城に持ってきなさい”とおっしゃいました。そこで初めて殿様だと気付いた娘は、無礼なことをして母親もただでは済まないと思ひ母の命だけは助けてくださいとお願いしました。親孝行に感心した殿様はお代とほうびを与えました。





現在も使われている日本最古の上水道

轟泉水道と轟水源

江戸時代、宇土の中心部の飲み水は水質があまり良くなかったので、初代藩主細川行孝は轟水源から松橋焼の土管を使った水道を造りました。総延長4.8kmもつなく大工事で、寛文4年(1664年)に完成しました。しかし、100年ほど経つと傷みが激しくなったため、5代藩主興文のとき、土管を網津産の馬門石製樋管に取り換える大改修を行いました。武家屋敷には1戸毎に水を蓄えるための井戸が設けられました。また、町内には共同の井戸がつけられ、宇土の人々の生活を潤しました。この轟泉水道は、今でも100戸余りの人々が生活用水として利用し、現在使われている上水道では日本最古といわれています。水源の轟水源は、歴史的価値も認められて環境省選定「日本名水百選」に選ばれています。



松橋焼陶管と馬門石製樋管の重なり
細川家陣屋跡(現在の教育委員会)前の道路の水道工事中に、松橋焼陶管と馬門石製樋管が重なって見つかりました。

轟泉水道のルート



取水口
この水門から樋管を通し、宇土市街地まで水源の水を導いています。



マと落し口
(水源より約0.5km)
樋管のコース変更や水のろ過などのため、約90cm四方のマ(貯水槽)を要所に配置しています。また、灌がい用水確保のために水の落し口をつくっています。



水道塙
(水源より約2.1km)
地盤の低い所では石垣を築いた塙(土手)をつくり、樋管を据えています。



最終井戸
(水源より約3km)
船場橋のたもとには轟泉水道の最終井戸があり、余った水は船場川に排出されます。



轟御殿跡とその一帯

轟水源一帯は、轟泉自然公園として整備され、大太鼓收藏館の近くにある轟御殿跡は桜の名所として市民に親しまれています。轟泉資料館では宇土細川藩関連資料や轟泉水道の資料が展示されています。



名水名月合同茶会

轟御殿跡野点広場にて開催されます。各社中は轟水源の水を使用し、お点前を披露します。

土俵入り「不知火型」の創始者

第8代横綱 不知火諾右衛門



江戸時代の名横綱「不知火諾右衛門」は本名を近久信次といい、享和元年(1801年)宇土市栗崎町に生まれました。子供の頃から宮相撲をとり、力持ちで有名でした。造り酒屋で働いていた時、近くで火事があり、酒蔵の樽を一人で運び出したというエピソードもあります。文政6年(1823年)、大坂相撲の大関まで昇進、天保11年(1840年)には江戸相撲で横綱の免許を与えられました。江戸城内で將軍徳川家慶の上覧相撲が催され、この時の土俵入り(不知火型)を描いた綿絵が残されています。体格は身長約175cm、体重約135kgという当時としては堂々たるものであったようです。嘉永7年(1854年)に54歳で他界し、墓が故郷である栗崎町の小高い丘の中腹にひっそりと立っています。

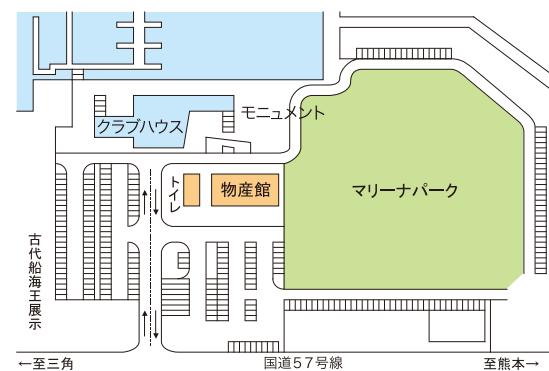


オーシャンライフの拠点 宇土マリーナ

船舶を係留できるドックシステム、モーターボート200隻、ディンギーヨット100隻を保管できるポートヤードなどを完備したマリンスポーツのメッカとして注目されており、クルージングも楽しむ事ができます。マリーナハウスをはじめ30トンクレーン、合宿所、研修室なども充実。

マリーナパークでは、その広大なスペースを活用してジュニアサッカー大会などが開催され、毎年多くのチームが参加し熱戦を繰り広げています。

また、古代船「海王」や復元石棺、馬門石製モニュメントも展示されています。



道の駅

「宇土マリーナ」物産館

道の駅「宇土マリーナ」物産館は本市の西部地区活性化の起爆剤として平成18年4月にオープンしました。

この物産館は地元で獲れた旬の農産物や海産物を多く取り揃えており、工芸品なども販売しています。また、地産地消を推進した観光拠点の場ともなっており、物産館内にある「漁師食堂」では獲れたての魚介類を使った料理を食べることができます。このほかにも網田ネーブルを使用したソフトクリームやどら焼きも販売しており地元ならではの味を堪能できます。



焼きのリゾット



ネーブルソフト



ネーブルどら焼き

有明の 海で 遊ぶ



赤瀬海水浴場

赤瀬海水浴場は身近な海水浴場として人気があり夏休みには家族づれなどで賑わいます。

潮干狩り

日本有数の遠浅を誇る有明海はアサリの産地。家族みんなで潮干狩りが楽しめます。4～5月がシーズン。



マリンスポーツ

ウィンドサーフィンをはじめジェットスキー、モーターボート、ディンギーヨットなど様々なマリンスポーツが楽しめます。

夕日と干潟

干潟差の激しい有明海に面した干潟模様のごとも美しい海岸で、「日本の渚百選」にも選定されています。夕日に照らされた赤と黒の干潟模様が見事な景観を造り出します。





海苔

海苔の本場「有明海」の良品。磯の香ただよ味の良さと独特の光沢が、食欲をそそります。



アサリ

日本有数の遠浅を誇る有明海のアサリ。キュッと引き締まった身は食べごたえ満点。(潮干狩り:4~5月)



もち

肥後の良質もち米を使った一口サイズの可愛い小餅。宇土の名物菓子。



張り子

明治の初め、広島尾道の旅人が製作技法を伝えたといわれる「宇土の張り子」。長い伝統を持つ宇土の伝統的民芸品。

宇土の逸品



アンデスメロン

糖度が高く、芳香いっぱいの高級メロン。贈答用やグルメの食材にどうぞ。(食べ頃:3~5月)



デコボン

やさしい香りと甘酸っぱさが絶妙です。高級柑橘として大人気。(食べ頃:3~4月)



網田ネーブル

太陽の恵みをたっぷり浴びて完熟したネーブルは、味も香りも最高。宮内庁献上品。(食べ頃:1~3月)



幕府への献上品 幻の肥後細川藩御用やきもの

おうだ

網田焼

1793年(寛政5年、一説には寛政4年)、肥前の陶工「山道喜右衛門」を招いて作られるようになりました。初期は、織細で質の高い作品(置物、香炉、筆立など)が多く、肥後細川藩の保護のもと幕府や大名への贈り物として焼かれていました。

しかし、30年ほどで細川藩の保護が打ち切られると、近くの山の粘土を用いて日用雑器(皿、鉢、茶碗など)を大量生産するようになりました。作品の質は徐々に低下し、1932年(昭和7年)には生産が中止されてしまいました。

昔は、8つの窯があったと伝えられていますが、現存する窯は、「長尾新家窯」のみで、熊本県の指定史跡として保存・整備されています。山の北斜面を利用した「のぼり窯」で、5段に連なった窯が1組をなしており、下の方から順々に大きくなっています。

現在、網田焼の陶工の監督を務めていた中園家の居宅も修復・整備され、併設された資料館には、網田焼の作品をはじめ、網田焼に関する様々な資料が収集・展示されています。



中園邸 (市指定文化財)

肥後細川藩御山支配役を勤めた中園英之助の居宅。170年以上の歳月を経た巨大な大黒柱・梁・かまど・座敷・庭などからは、江戸時代の雰囲気を感じることができます。



アジサイの花ゆれて



あじさいの湯

100%天然温泉のあじさいの湯。アルカリ性単純温泉で大浴場、サウナ、リフレッシュルームなども完備。
○営業時間 午前10時～午後9時 休館日 第一・三月曜日／12月31日／1月1日

甲岩自然公園(かぶといわしぜんこうえん)

加藤清正がかんがい用に造ったと伝えられる通称「七曲堤」一帯です。春には桜、秋にはコスモスが咲き、冬は野鳥の飛来地として知られています。



ドゥルー女史記念碑

日本一の「のり」生産地有明海。イギリス人のキャスリーン・メアリー・ドゥルー女史は、のり養殖の技術「人工採苗」の開発のきっかけとなった「糸状体期」を発見しました。
昭和38年、彼女の功績をたたえ住吉神社の境内に顕彰碑が建立され、毎年4月14日にはドゥルー祭が行われます。



風流島(たはれじま)

住吉自然公園から見える位置にある小さな島。頂上には高さ1.3m、幅1.1mの小さな鳥居があり、古くは伊勢物語、枕草子に詠まれています。
枕草子:島は八十島。浮島。たはれ島。絵島(後略)
伊勢物語:名にしおはば あだにぞあるべき たはれ島 浪の濡衣 着るといふなり



住吉自然公園

季節になると約2000株の紫陽花が咲く自然公園です。また、公園からは有明海が一望でき、金峰山や雲仙普賢岳も眺望できます。(花の見ごろ 6月)



紫陽花マンドリンコンサート

住吉自然公園で6月中旬に開催される花と音のイベントです。ちょうど満開のアジサイに囲まれた会場では、オリジナル曲「あじさいの歌」などが演奏され初夏の風物詩となっています。



立岡自然公園

加藤清正が指揮をして造ったと伝えられる立岡池と、幕末に完成した花園池を中心とした自然公園。約2000本の桜が立ち並ぶ県内有数の桜の名所で、テニスコートやキャンプ場の設備も整っています。



立岡キャンプ場

立岡池の湖畔にあり、クヌギ林の中のキャンプ場です。炊飯棟、トイレなどの施設も整っており、子ども連れで楽しめる空間です。

轟泉自然公園



轟御殿跡では桜の開花時期になると、市天然記念物・しだれ桜(左写真)をはじめソメイヨシノも観賞することができます。

つつじヶ丘自然公園

市街地から西へ2kmの小高い丘は、天然のつつじが自生する自然公園として整備されています。4月から5月が花の見ごろです。

GOLF



あつまるレークカントリークラブ

(電話0964-32-2711)
6900ヤード、18ホールの本格的なWイベントグリーン。熊本市から車で25分、松橋インターから車で5分と交通の便も良いゴルフ場。

チェリーゴルフクラブ 宇土コース

(電話0964-22-2200)
6439ヤード、18ホール、パー72の変化に富んだレイアウトが魅力のコース。熊本市から車で25分、松橋インターから車で10分と交通の便も良いゴルフ場。





なむじぞう
だいちつさん
あーげて
おさいせん
おはらせ

うと地蔵まつり

肥後三大夏祭り



なむじぞう、だいちつさん、あーげてくださいおさいせん。…夏の夕暮れ、鐘の音とともに子どもたちの歌声が聞こえてきます。毎年8月23・24日の両日でうと地蔵まつりは開催されます。

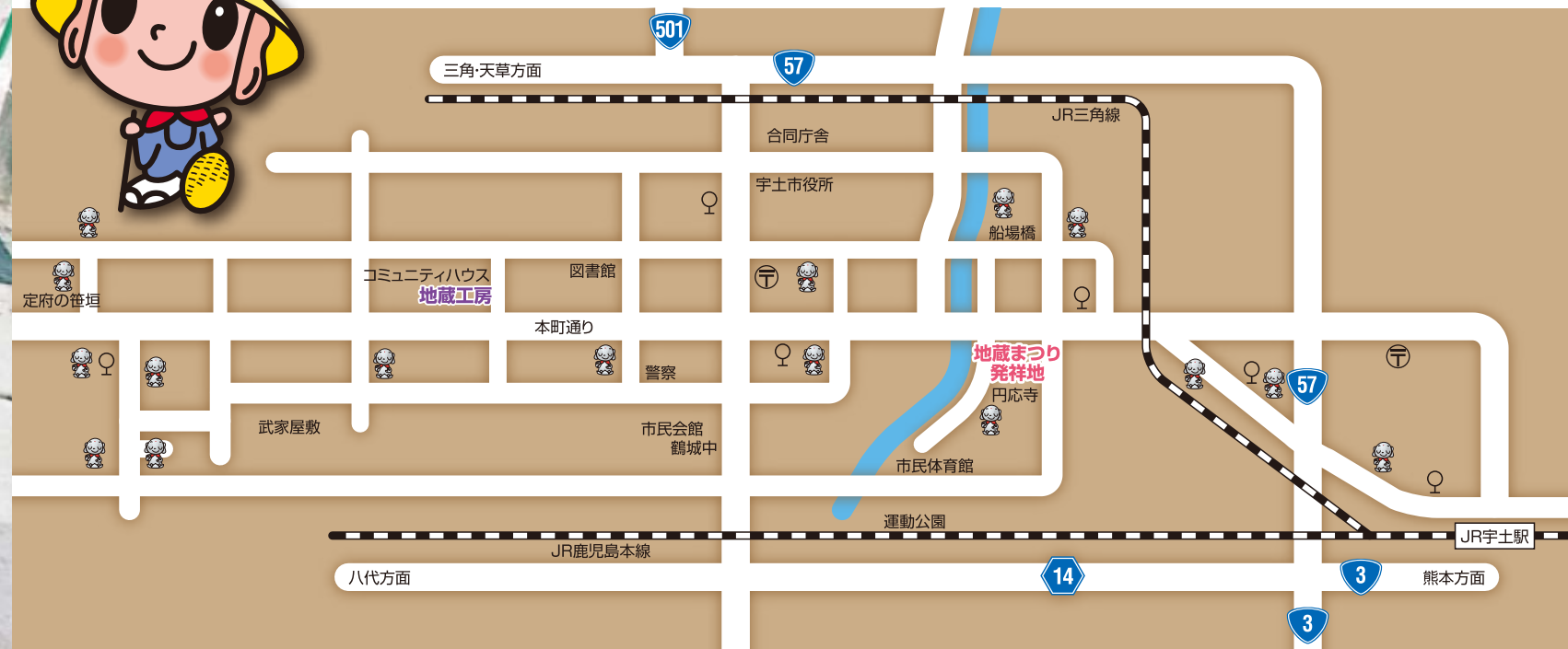


日ごろは小さなお堂にまつられたお地蔵様を、子どもたちが飾り立て、供え物とともに通りに奉ります。また商店街には、生活雑貨や日用品を素材にした「造りもん」が並び、祭りを盛り上げます。夜には大規模な花火大会、コンサート、民謡パレードなどが行われ町並みが大勢の人で埋め尽くされます。



【地蔵まつりの由来って…】

CHECK この祭りは、約360年前から始まったとされています。当時は、病気に対しての知識がとぼしく、疫病が流行すると特に抵抗力の弱い子どもの死亡率が高かったそうです。そこで、このようなことが起こらないようにこの願いを込めて、子どもの守り神である地蔵菩薩に祈願をしたことから地蔵まつりは始まったとされています。
※このお地蔵さんは現在、本町通りの円応寺にあります。



EVENT CALENDAR

イベント
カレンダー

3月 March

1日~3日

粟嶋神社春季大祭 ミニ鳥居くぐり

下旬~4月上旬

桜花見(立岡・轟御殿跡・甲岩自然公園)

下旬

桜まつり(立岡自然公園)

3月~7月

潮干狩り(長浜潮干狩場)

4月 April

4月~5月

天然つつじ花見(つつじヶ丘自然公園)

6月 June

中旬~下旬

あじさい花見(住吉自然公園)

中旬 日曜日

紫陽花マンドリンコンサート(住吉自然公園)

7月 July

7月~8月

赤瀬海岸海水浴

8月 August

第1土曜日

宇土大太鼓フェスティバル(運動公園)

23・24日

うと地蔵祭り(造り物)

9月 September

中秋の名水名月合同茶会(轟御殿跡)

10月 October

13日

住吉神社大祭(住吉自然公園)

19日

西岡神宮・網田神社大祭

20日

松山神社大祭

12月 December

旧暦の11月申の日

甘酒まつり(山王神社大祭)

西岡神宮大祭

宇土の御獅子舞



約260年の歴史があると伝えられる御獅子舞。5代藩主細川興文が西岡神宮に獅子舞を奉納したのが始まりといわれており、県無形民俗文化財に指定されています。雄雌各1頭の獅子と童子が銅鑼(どら)とカネの音に合わせて街の中で舞を披露します。(10月19日)

粟嶋さんのミニ鳥居くぐり



3月1日から3日間行われる粟嶋神社春季大祭。境内にある高さ30cmほどの小さな鳥居を女性たちが一生懸命にくぐります。このミニ鳥居をくぐると、安産や婦人病にご利益があるといわれており、大祭には、県内外から多くの女性参拝者が集まります。

山王神社大祭

甘酒まつり



赤い着物を着て、猿に扮した若者たちが互いに甘酒を掛け合います。山王神社に伝わる奇祭は、約700年の歴史があるといわれています。(旧暦11月申の日)



大太鼓フェスティバル

毎年8月第一土曜日、市の運動公園で開催される大太鼓の祭り。新旧大小の太鼓の競演が繰り広げられ、特に江戸~大正時代に製作された二十六基の大太鼓は迫力満点。太鼓による新しい芸能「新伝承・宇土太鼓26」も誕生しました。

人々の切なる願いが
二十六基の勇壮な太鼓に託された

雨乞い大太鼓

稲作農業を生活の中心とする日本では、昔から水は貴重なものとして大切に扱われてきました。ここ宇土の地では、日照りて雨が降らなくなると大太鼓をたたいて雨が降るように祈願を行いました。宇土の大太鼓は、直径1mを超えるケヤキの大木をくりぬいたもので、周縁に木星(きぼし)と呼ばれるかざりが付く特色があります。今でも、地域の伝統行事として雨乞い太鼓を使った祭りは伝承されています。



椿原雨乞い太鼓

田植えが終わった時期に行われる椿原八幡宮の大祭を、地元では「根付けまつり」と呼び、田植えの労をねぎらったといわれています。雨乞いの踊りに繰り出される大太鼓は、ケヤキの大木をくりぬいたもので重さは約1トンともいわれています。

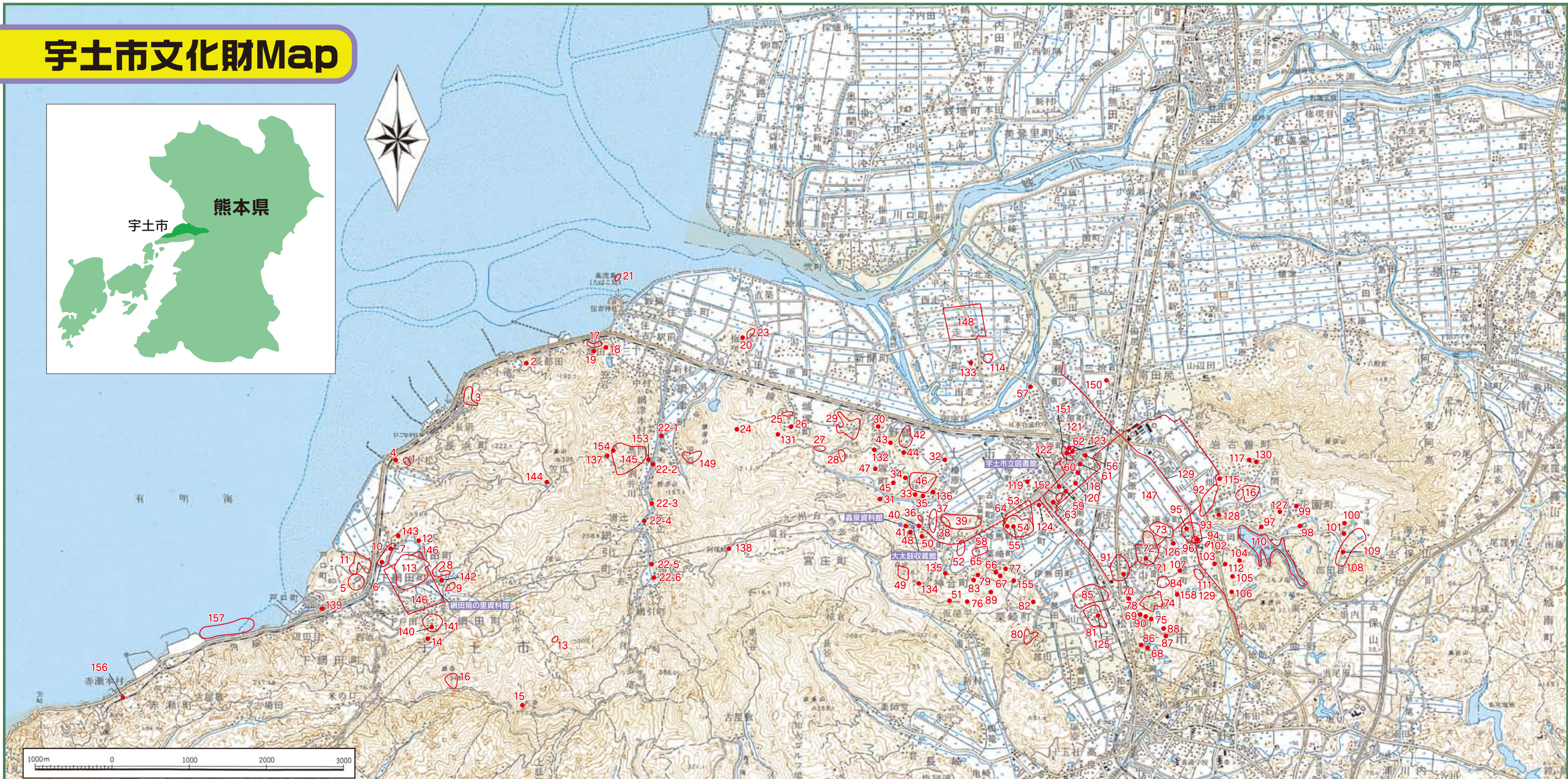
宇土市大太鼓収蔵館

雨乞い祭りは各地区の伝統行事として戦前までは盛んに行われていましたが、戦後急激な社会変化により、伝統行事は廃れました。太鼓は神社や寺の片隅に放置されたままの状態が続きます。そんな中、椿原地区では太鼓を修復し、雨乞い太鼓が復活しました。各地区でも太鼓の復興の動きが始まり、平成元年~3年、26基の太鼓の皮の張替えを行いました。

宇土市大太鼓収蔵館はその大太鼓を一堂に集めて保管・展示し、宇土の雨乞い太鼓の歴史を紹介しています。



宇土市文化財Map

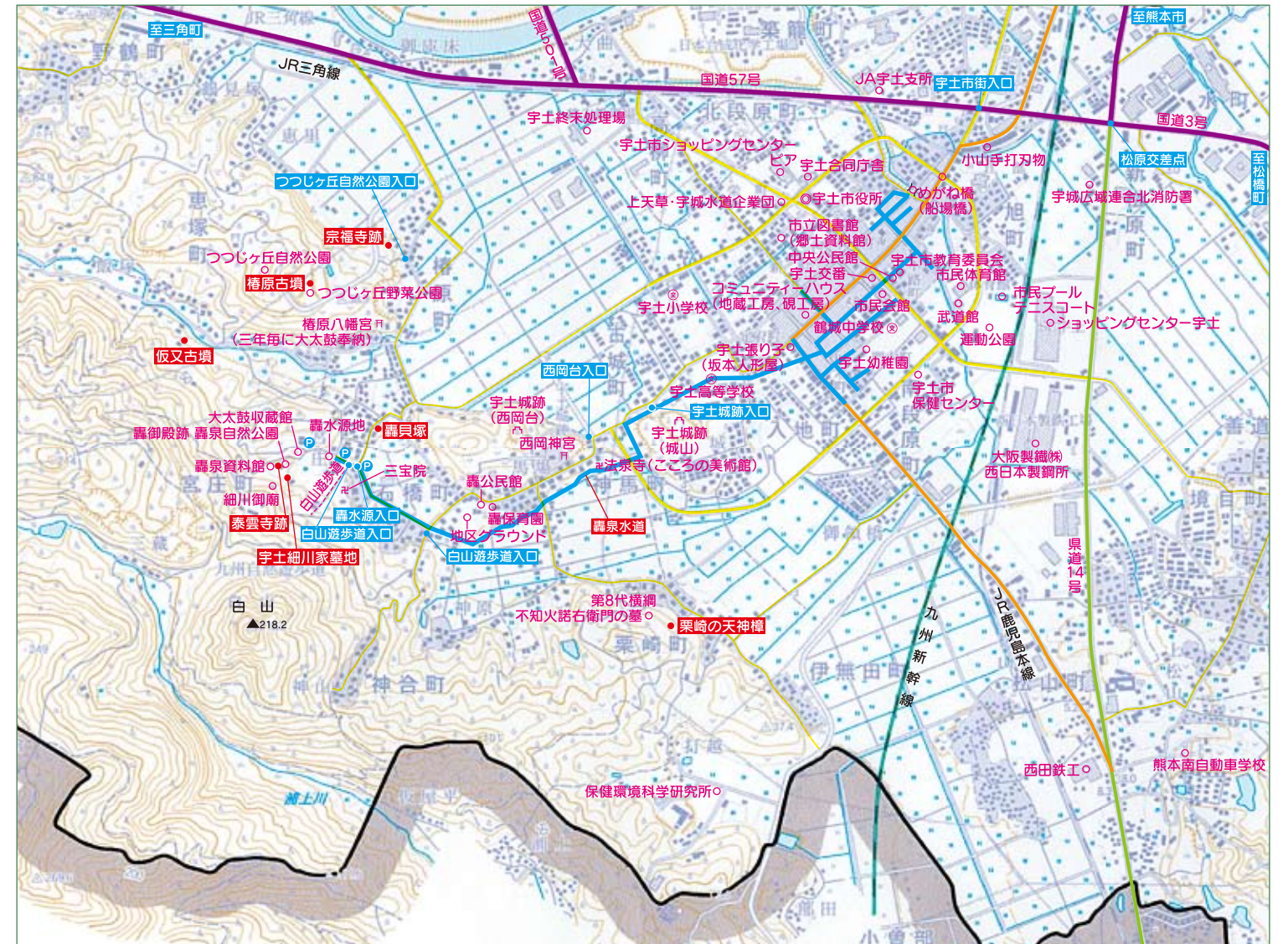


No.	遺跡名	時代	指定	No.	遺跡名	時代	指定	No.	遺跡名	時代	指定	No.	遺跡名	時代	指定	No.	遺跡名	時代	指定	No.	遺跡名	時代	指定				
1	小松山古墳群	古墳	市	21	風流島	古代	市	41	泰雲寺跡	近世	市	61	天草四郎ゆかりの里	近世	市	101	暦仁二年銘宝塔残欠	中世	市	121	石瀬古城跡	中世	市	141	上床遺跡	古代・中世	市
2	小池平古墳	古墳	市	22	網津川眼鏡橋群	近世	市	42	恵里遺跡	古墳～中世	市	62	石ノ瀬遺跡	縄文～近世	市	102	立岡遺跡	縄文	市	122	三丁目御門跡	近世	市	142	引の花の六地藏	中世	市
3	長浜箱式石棺群	古墳	市	23	梅崎箱式石棺群	古墳	市	43	経塚古墳	古墳	市	63	武家屋敷の表門	近世	市	103	ウバノ塚古墳	中世	市	123	宇土藩御蔵跡	近世	市	143	田平の五輪塔板碑	中世	市
4	又古墳	古墳	市	24	城塚古墳	古墳	市	44	恵里屋敷古塔群	中世	市	64	古城古墳	古墳	市	104	晩免古墳(花園陵墓参考地)	古墳	市	124	御高札場跡	近世	市	144	笠瓜の千匹塚	中世	市
5	マブシ古墳群	古墳	市	25	城塚町尾上横穴古墳群	古墳	市	45	金嶽山古墳	古墳	市	65	馬場遺跡	弥生	市	105	瀧野古墳(資盛さん)	古墳	市	125	松山手永会所跡	近世	市	145	馬門石切場跡	古墳～近世	市
6	城1号墳	古墳	市	26	千体仏	中世	市	46	椿原遺跡	弥生～中世	市	66	猫の城古墳	古墳	市	106	西瀧野古墳	古墳	市	126	古保里の六地藏	中世	市	146	糸里跡	古代・中世	市
7	城2号墳	古墳	市	27	伊津野遺跡	縄文～中世	市	47	東畑古墳群	古墳	市	67	城の越古墳	古墳	市	107	上松山古墳	古墳	市	127	山王神社	中世	市	147	糸里跡	古代・中世	市
8	タラ平遺跡	古代・中世	市	28	神の木山古墳群	古墳	市	48	細川家墓地	近世	市	68	向野田古墳	古墳	市	108	如来寺遺跡	中世	市	128	花園山城跡	中世	市	148	糸里跡	古代・中世	市
9	網田焼窯跡	近世	市	29	野鶴貝塚	近世	市	49	遊目台	近世	市	69	向野田古墳	古墳	市	109	三日の六地藏	中世	市	129	薩摩街道	中世	市	149	平原貝塚	縄文	市
10	田平城跡	中世	市	30	天神山古墳	古墳	市	50	堀内氏善の墓	近世	市	70	畑中古墳	古墳	市	110	立岡公園一帯(立岡池・花園池)	近世	市	130	伝、古保里越前守之墓	中世	市	150	高濱武蔵守板碑	古墳・中世	市
11	塩屋遺跡	古墳～中世	市	31	仮又古墳	古墳	市	51	スリハチ山古墳	古墳	市	71	境目石棺群	古墳	市	111	神ノ山古墳群	古墳	市	131	海蔵寺跡	中世	市	151	船場界限	近世	市
12	ヤンボン塚古墳	古墳	市	32	宗福寺跡	中世	市	52	陳の前遺跡	弥生～中世	市	72	境目西原遺跡	縄文～中世	市	112	二枝古墳	古墳	市	132	恵塚古塔群	中世	市	152	門内界限	近世	市
13	タラ平製鉄跡	古代・中世	市	33	椿原貝塚	古墳	市	53	宇土城跡(小西城)	近世	市	73	善導寺遺跡	縄文～中世	市	113	古保里遺跡	弥生～中世	市	133	走瀧の六地藏	中世	市	153	歳の神の桶	中世	市
14	長福寺(業師堂)跡	中世	市	34	椿原古墳	古墳	市	54	宇土城跡城山遺跡	縄文～近世	市	74	山内遺跡	縄文～中世	市	114	南走遺跡	古代・中世	市	134	光園寺跡	中世	市	154	牧神社のイチヨウ	中世	市
15	大岳城跡	中世	市	35	椿原石蓋土壘	古墳	市	55	古城墓棺	弥生	市	75	高城跡	中世	市	115	釈迦前遺跡	古墳	市	135	極楽寺跡	中世	市	155	栗崎の天神樟	中世	市
16	雄岳城跡	中世	市	36	北平遺跡	弥生	市	56	芭蕉塚	近世	市	76	迫の上古墳	古墳	市	116	前田遺跡	古代・中世	市	136	椿原八幡宮	中世	市	156	赤瀬オハツキイチョウ	中世	市
17	小部田横穴群	古墳	市	37	轟貝塚	縄文	市	57	築籠貝塚	縄文	市	77	不知火諾右衛門の墓	近世	市	117	如来寺と寒巖禅師之墓	中世	市	137	鹿夢亭跡	近世	市	157	網田海岸一帯	中世	市
18	御殿山古墳	古墳	市	38	西岡台貝塚	縄文	市	58	轟泉水道	近世	市	78	桶底古墳	古墳	市	118	樹徳寺跡	中世	市	138	阿保峠の板碑	中世	市	158	寺尾勝信の墓	近世	市
19	御殿山箱式石棺	古墳	市	39	宇土城跡(西岡台)	古墳・中世	市	59	温知館跡	近世	市	79	神合古墳	古墳	市	119	寿量寺の一字一石塔	近世	市	139	真政の津波供養碑・戸口の六地藏	中世・近世	市				
20	梅崎古墳	古墳	市	40	轟水源地及び樋管	近世	市	60	船場橋	近世	市	80	大平横穴群	古墳	市	120	宇土細川藩陣屋跡	近世	市	140	阿蘇家墓地	中世	市				

宇土市街地



轟地区



船場橋 (せんばし)
全長13.7m、幅4.1mの船場川に架かる単アーチ橋。石材は宇土市納津町で採れる馬門石と安山岩です。江戸時代終わり頃の150年くらい前に造られたとみられます。それ以前は土橋でした。付近には船着場があり、落米を運ぶための載などがありました。



石ノ瀬遺跡 (いしのせいせき)
発掘調査で押型土器(縄文時代早期、今から約7000年前)、弥生式土器、朝鮮系無文土器(弥生時代中期、写真)、円筒埴輪(古墳時代中期)、中・近世の土器・陶磁器などが出土しました。また、かつては宇土城下の東の守りとするための城がつくられていたようです。しかし、江戸時代初頭になると付近の武家屋敷づくりや町割のために土取りが行われ、城は壊されたと考えられます。



門内界隈 (もんないかいわい)
江戸時代の宇土細川藩の家臣たちの武家屋敷があったところ、家並や区画がところどころに残っています。市の指定文化財となっている高月家は長冊や当時の建物が残っており江戸時代の光景を彷彿とさせます。



宇土細川藩陣屋跡 (うとほそかわはんじんやあと)
江戸時代、宇土三方石を治めた宇土細川家の屋敷跡。現在の教育委員会付近にありました。藩主が住んでいて参勤交代なども行っていました。幕末、全国には276の大名がいましたが、城をもっていたのは158の大名で、そのほかは陣屋でした。なお、敷地跡前の道路には轟泉水道がとっています。



天草四郎ゆかりの里 (あまくさしろうゆかりのさと)
益田(天草)四郎は1623年に長崎で生まれ、宇土の江部村(現在の旭町)で育ちました。四郎は後に天草四郎時貞(洗礼名ジェロニモ)と呼ばれるようになり、わずか15歳で天草・島原の乱(1637年)で3万7千人の民衆を指揮して強大な幕府軍と戦いました。



温知館跡 (あちかんあと)
宇土細川藩5代藩主、細川興文(おきのり)が宝暦13年(1763年)に開校した藩の学校。敷地内には武道に励む武館も後に建てられました。毎日午前9時に登校、習字、読書を行っていました。生徒は通学生で約120名、学費は無料でした。



轟貝塚 (とどろきいづか)
大正時代以来、数度の発掘調査が行われ全国的にも知られている縄文貝塚。この貝塚から発見された土器に名付けられた縄文土器は、縄文時代前期(今から6000年程前)を代表する土器として有名です。発掘調査によって数多くの土器、石器などが発見されています。



仮又古墳 (かりまたこふん)
古墳時代終末期(7世紀前半)の円墳です。東西12m、南北14mの不整円形で、墳丘の土の大部分は流出し、横穴式石室の石材が露出しています。石室の両壁には船の線刻が描かれています。出土遺物としては、須恵器、土師器、鉄鏝などがあります。



栗崎の天神樟 (くりさきのてんじんくす)
高さ27.5m、樹囲12.3mの規模をほこるクスノキの巨樹で、県指定天然記念物に指定されています。枝はり東西32mほどで、樹齢は400年以上と推定されています。地上近くから枝が分かれており、中心となる幹枝がないことが特徴です。



椿原古墳 (つばはらこふん)
1辺約20mの方墳。横穴式石室の入口部は、朝抜玄門(くりぬきげんもん)と呼ばれる特徴的なもので、その石材には馬門石が用いられています。また、羨道の側壁には線刻によって、格子目文をはじめとする文様が描かれています。出土した須恵器から7世紀初頭の築造と考えられます。



宗福寺跡 (そうふくじあと)
名和氏が名和家菩提寺として建立した曹洞宗の寺院です。本尊地藏菩薩立像のほか、名和武頭(たけあき)と名和行興(ゆきおき)の位牌があります。また、境内には名和行直(ゆきなお)の墓と伝えられる石塔や六地藏などもあります。

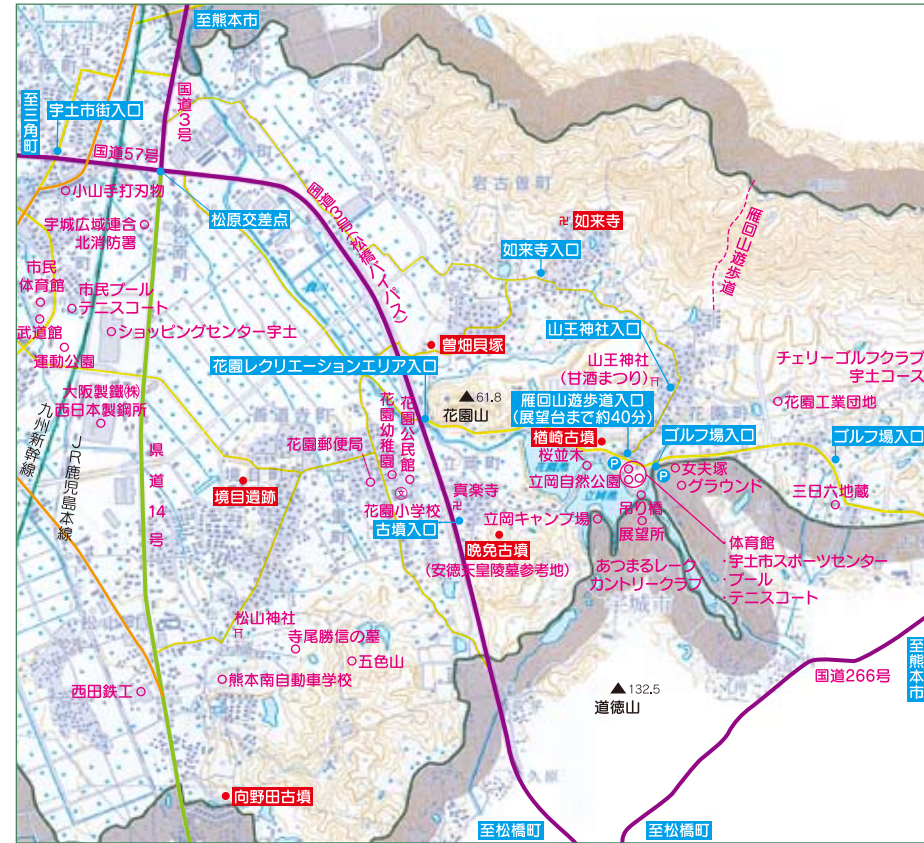


泰雲寺跡 (たいうんじあと)
宇土細川藩主の供養をおこなう菩提寺跡です。寺跡の近くの階段を登ると歴代藩主の墓が並んでいます(細川家墓地)。明治時代の初め、寺は壊され原泉社(げんせんしゃ)という神社が建てられました。



細川家墓地 (ほそかわけぼち)
宇土細川家の初代藩主から続く墓地です。このうち、6代藩主立礼と8代藩主立政は肥後本藩の藩主としてそれぞれ8代、10代藩主となっているため、熊本市の泰勝寺と妙解寺に墓地があり、この地にはありません。また、近くには家老など重臣の墓もあります。

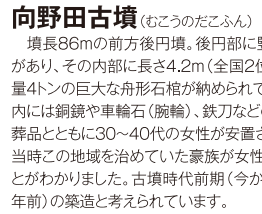
はな その 花園地区



曾畑貝塚 (そばたかいつか)
大正から平成にかけて数回発掘調査が行われています。近年の発掘調査では、トングリの貯蔵穴が62基発見されて注目されました。この遺跡から出土する曾畑式土器は、九州縄文時代前期（今から約6000年前）の最も代表的な土器です。もともとは、朝鮮半島で作られていたものが、しだいに九州に伝わり、宇土にも伝わってきたと考えられています。



晚免古墳 (ぼんめんこふん)
円文などの装飾を施した家形石棺をもつ古墳時代中期の円墳です。装飾紋様の中に、菊花文状の装飾が彫刻されていることや、立岡地域に残る伝承などによって、安徳天皇の陵墓ではないかという説があり、宮内庁によって花園陵墓参考地とされています。



向野田古墳 (むこうのたごふん)
墳長86mの前方後円墳。後円部に堅穴式石室があり、その内部に長さ4.2m（全国2位）、推定重量4トンの巨大な舟形石棺が納められています。棺内には銅鏡や車輪石（船輪）、鉄刀などの豪華な副葬品とともに30〜40代の女性が安置されており、当時この地域を治めていた豪族が女性であったことがわかりました。古墳時代前期（今から約1600年前）の築造と考えられています。

境目遺跡 (さかいめいせき)
弥生〜中世の遺跡で、宇土半島基部の遺跡では最も注目すべき遺跡のひとつです。弥生時代の土器や埴輪、石包丁、石鏃、石剣、砥石などが出土しています。また、古墳時代の土師器、須恵器、さらには古代の土器、中世の青磁なども出土しています。

楢崎古墳 (ならさきこふん)
全長46mの前方後円墳と推定され、後円部には、舟形石棺1基、家形石棺2基などをはじめとする計4基の埋葬施設があり、前方部にも箱式石棺1基があります。

如来寺 (にょらいじ)
曹洞宗の開祖である道元の直弟子、寒巖義尹（かんがんぎいん）が文永6年（1269年）に開いたお寺です。寺号は三白山如来寺で、七堂伽藍をそなえ、近くにはいつかの小寺・尼寺をもっていました。永正元年（1504年）に現在の岩古曾町に移りましたが、周辺には三日から運ばれたと思われる彫刻品や石造物が残っています。



天神山古墳 (てんじんやまこふん)
古墳時代前期（今から1600年前）の前方後円墳。墳長107m（県下3番目の大きさ）、後円部径61m、前方部長46mの規模をほこります。土器の小片が表採されています。

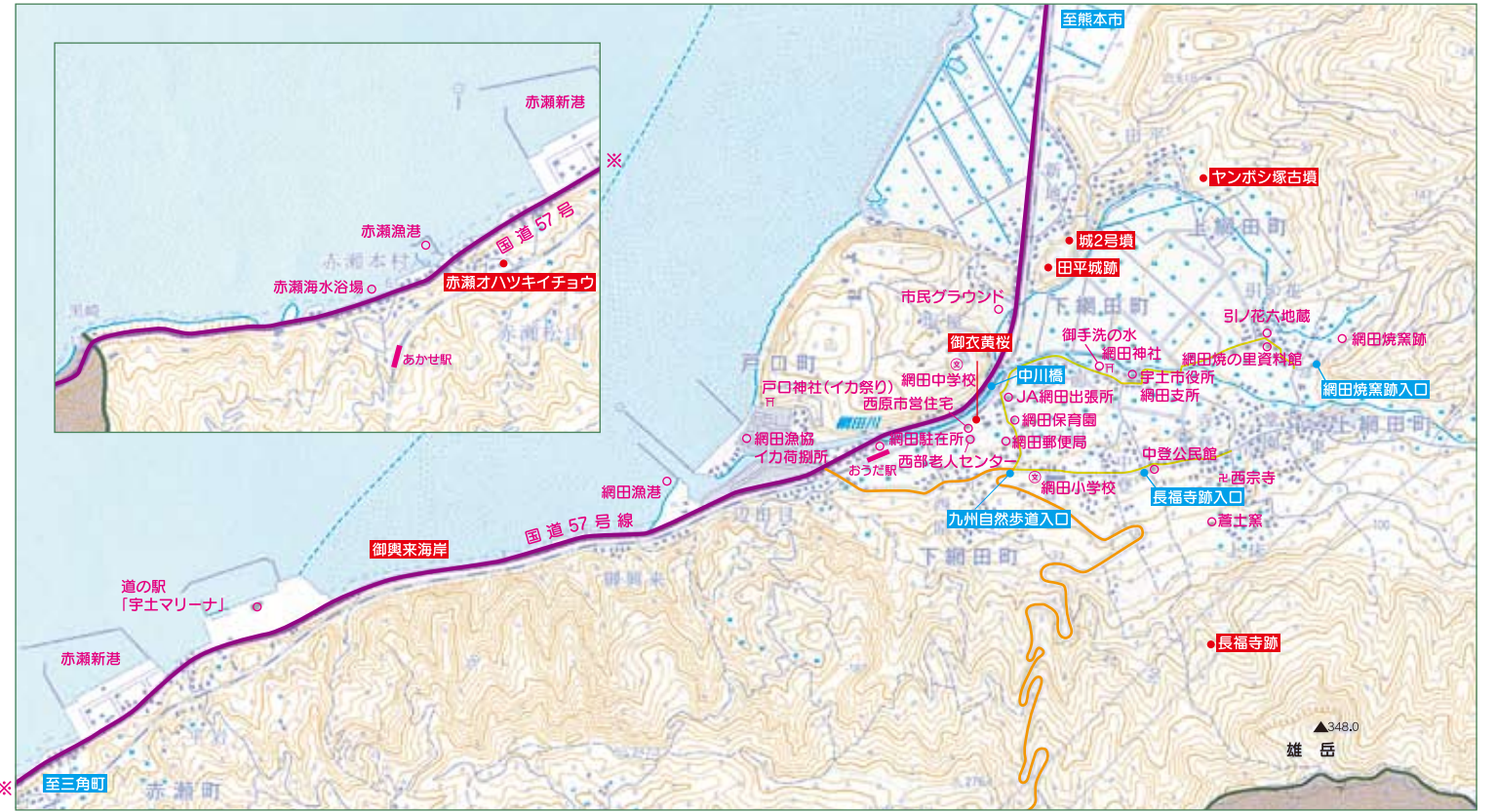


歳の神の楠 (としのかみのくす)
高さ14m、幹周14.2mの大きなクスノキです。主幹は空洞ですが、それぞれ大きな枝が放射状に斜め上方向に立ち上がった姿が美しいです。



牧神社 (まきじんじゃ)
永承年間（今から950年頃前）の建立されたといわれる神社です。この神社の近くには古くから馬を飼育する牧場が存在し、その牧場の守護神としてこの神社がつくられたと考えられます。現在、当時の建物は残っていませんが、文化4年（1807年）につくられた馬門石製の鳥居が建っています。

おう だ 網田地区



城2号墳 (じょうごうごふん)
直径約20〜25m、高さ約3mの円墳。横穴式石室としては初期のものに属し、県下では最も古いものの一つです。副葬品として滑石製の琴柱形石製品（ことじがたせきせいひん）・管玉・小玉などの装身具、鉄剣・鉄鏃・鉄斧・刀子などがあります。被葬者は成人女性?1体と成人男性1体の計2体でした。5世紀前半頃に造られたもので、網田地域を支配していた豪族の墓と推定されています。



御衣黄桜 (ぎよいこうざくら)
4月下旬ごろから咲き始めるこの桜は、花びらの色が最初ほうすい緑色で、その後黄色、ピンクへと色を変えていきます。やがて花ごとポトリと落ちるといって大変個性豊かな桜です。



宇土市立図書館郷土資料室
宇土市内各地から出土した発掘資料や歴史資料などを展示しています。特に宇土市松山町所在の向野田古墳の出土品は、国指定の重要文化財であり、4世紀後半頃の豪族の副葬品として著名なものとなっています。また、毎年1〜2回程度、宇土市の歴史・文化をテーマに特別展を実施しています。



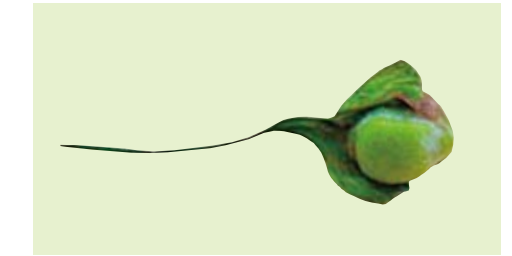
長福寺跡 (ちやうふくじあと)
業師如来胎内銘の発見によりこの寺が「長福寺」という寺であったことがわかりました。その胎内銘には、この寺の僧であった道念が元徳3年（1331年）に長さ3尺（約91cm）の薬師如来1体の造立を発願し、同年に造立したという内容が記されています。現在、薬師堂がある寺域内には鎌倉様式のおびただしい数の五輪塔があります。



田平城跡 (たひらじょうあと)
中世における網田城であり、幅3.2m、深さ1.5mの堀があり、敵の攻撃を防いでいました。堀の底から火縄銃の弾丸の鋳型や中国製の青磁・染付などが発見されています。弾丸の鋳型の大きさはマッチ箱ぐらいで、材質は滑石製です。全国でもあまり例のない珍しいものです。

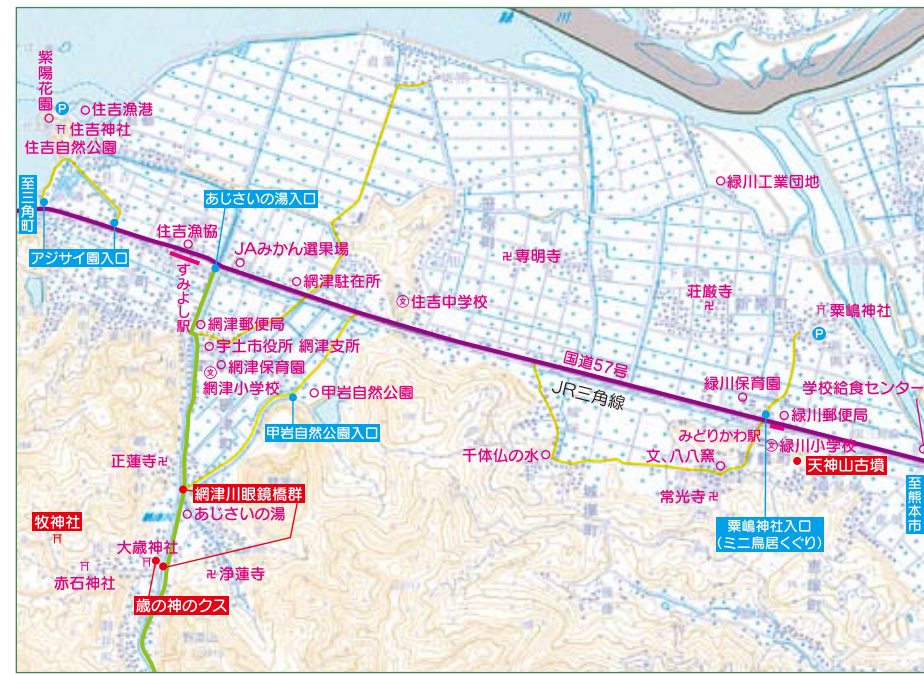


ヤンボシ塚古墳 (やんぼしづかこふん)
直径20m程度の円墳とみられ、周溝を含めると直径25mくらいになります。内部主体は、玄室内部の周囲に板石（石障）をめぐらせた、いわゆる石障系横穴式石室です。石材の一部には馬門石が使われています。石室の壁にはゴンドラ形をした船が線刻されています。発掘調査の結果、土師器、鉄鏃、刀子などが出土し、5世紀後半の築造であることがわかりました。



赤瀬オハツキイチョウ
葉に実（銀杏）がつく珍しいイチョウです。大きさは、根回り4.9m、高さ22mで、樹齢100年くらいと推定されています。葉に実がつくイチョウは全国的にも極めて数が少ない。

みどり かわ あみ つ 緑川・網津地区



網津川眼鏡橋群 (あみづがわめがねばしぐん)
江戸時代末に造られたアーチ式的眼鏡橋群で、5基が現存しています。アスファルトで舗装されたり、コンクリートで固められたりして架橋当時の姿は残っていないものもありますが、今も地元の人々の生活には欠かせない橋となっています。

名称	幅(m)	長さ(m)
本網津橋	3.7	10.7
馬門橋	2.5	5.5
馬立橋	3.9	7.2
網引橋	4.2	7.1
タカフネ橋	2.4	5.0
猪伏橋	2.8	7.3

UTO map



観光モデルコース ※分数は車での移動時間です。

桜お花見コース (3月~4月)

立岡自然公園 10分 → 轟泉自然公園 1分 → 大太鼓収蔵館

潮干狩りコース (5月)

長浜海岸潮干狩り 10分 → あじさいの湯 15分 → 夕日と干潟の景勝地

あじさいコース (6月)

住吉自然公園 5分 → あじさいの湯 10分 → 轟泉自然公園

マリンコース (7月~8月)

宇土マリーナ 15分 → 夕日と干潟の景勝地 10分 → あじさいの湯

歴史探訪コース (通年)

轟水源と轟泉資料館・大太鼓収蔵館 3分 → 西岡神宮 2分 → 中世宇土城跡 2分 → 近世宇土城跡 5分 → 船場橋

宿泊施設一覧表

宿泊施設名	住所	電話
ビジネス旅館 こめや	宇土市本町4丁目32	TEL (0964) 22-0261
ホテルペンデナート	宇土市本町3丁目29	TEL (0964) 22-0880
宇土センターホテル	宇土市南段原町7	TEL (0964) 23-1211
千鳥館	宇土市赤瀬町653	TEL (0964) 27-0167
みどり荘	宇土市赤瀬町666-6	TEL (0964) 27-0170
磯亭	宇土市赤瀬町777-4	TEL (0964) 27-1880

JR料金のご案内 (料金は平成20年1月1日調査時の価格です。)

区間	料金
博多 75分	630円
博多 熊本往復 4,600円	
熊本 10分	270円
宇土 5分	200円
緑川 4分	220円
住吉 5分	270円
肥後長浜 5分	280円
網田 5分	280円
赤瀬 5分	380円

本表に表示されていない区間の料金は直接駅にお問い合わせ下さい。
問い合わせ JR宇土駅 0964-22-0019

タクシー料金のご案内 (平成20年1月1日現在) (目安)

JR宇土駅発	タクシーの利用
つじが丘自然公園 1,200円 [10分]	問い合わせ先
西岡神宮 1,040円 [8分]	宇土駅利用
栗嶋神社 1,200円 [10分]	西田タクシー 0964-22-0726
JR住吉駅発	宇城タクシー 0964-22-0711
あじさいの湯 720円 [5分]	住吉駅利用
住吉自然公園 720円 [5分]	ナカワタクシー 0964-24-3331
JR網田駅発	網田駅利用
運動公園 640円 [5分]	ナカワタクシー 0964-27-0132
船場橋 640円 [5分]	
市役所 640円 [5分]	
轟水源 (大太鼓収蔵館・轟御殿跡) 1,360円 [10分]	

この料金は目安となります。料金改定、交通渋滞、工事迂回などにより、多少変動します。

